

ポール・ハリス語録



ポール・ハリス (1868～1947)

友情は、進んで手を差し伸べる生まれながらの奉仕者です。友情は、あなたの成功を惜しみなく貢献します。世界に於てその役割を果たすために、友情という大きな力を活用してはいけないという理由は、倫理的にせよ、他の意味にせよ、ありません。

ロータリアン誌 1912年9月号



ありがとうございました

- 前田 成蔵さん 在籍表彰ありがとうございました。
- 村田 昌之さん 笠野さん本日の卓話ありがとうございました。
- 笹島 良雄さん 笠野さん本日はお忙しい中ようこそ来場賜り有難う御座いました。
- 堀岡 忠男さん 第2回マルチプル米山功労者をいただきありがとうございます。
- 岸裏 廣澄さん 笠野さん本日の卓話よろしくお祈いします。
- 山本 進三さん 笠野さま本日は卓話よろしくお祈いします。
- 乾 敦雄さん 笠野さん、卓話よろしくお祈いします。
- 阪神タイガース応援団一同

〔皆出席表彰〕

- 吉田 篤生さん 何とか5年皆出席できました。皆様ありがとうございます。
- 谷口 文利さん 1年皆出席

本日の累計 34,500円(計9名 10件)(お誕生日お祝い 514,240円 皆出席表彰 75,000円 その他 2,036,759円 累計額 2,625,999円)

市内ロータリークラブ情報	クラブ名	日 時	内 容
	和歌山城南R.C.	5月23日(木)	「新会員自己紹介」益田真樹会員
	和歌山南R.C.	5月24日(金)	例会変更
	和歌山中R.C.	5月24日(金)	R.I.研究
	和歌山北R.C.	5月27日(月)	「地区協議会要点的発表」
	和歌山アゼリアR.C.	5月27日(月)	次年度第1回クラブ協議会
	和歌山R.C.	5月28日(火)	「新会員卓話」大福 恵会員
	和歌山西R.C.	5月29日(水)	卓話
	和歌山東南R.C.	5月29日(水)	新会員卓話

本日の例会 5月23日(木) 次回の例会 5月30日(木)

- 卓話「和歌山市動物園について」
和歌山市まちづくり局まちおこし部和歌山城整備企画課
課長 山本 勝久さん
- お誕生日お祝い
谷口 文利さん 5月 7日 平岡 正至さん 5月15日
田中 完児さん 5月19日
- ピアノ演奏
薔薇のワルツ(服部 克久) 中井 利枝さん
黄昏(服部 克久)

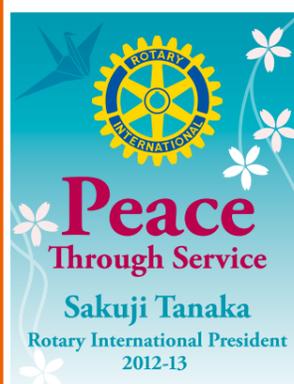
- 卓話

前回の例会 5月16日(木)

- 卓話「話し方」
アナウンサー 笠野 衣美さん
- ロータリーソング
「四つのテスト」 田原 久一 会員

メイキャップ情報 (敬称略)

5月22日(水) 和歌山東南R.C. 内畑 瑛造、黒田 純一、堀岡 忠男、松田 弘治、山野 武彦



「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 **和歌山東ロータリークラブ**
URL <http://www.werc.jp> E-mail info@werc.jp

2013年5月23日(木)
週報 / VOL.54 No.43(通巻2589)

会長報告

岸裏 廣澄 副会長



本日は「三脱の教え」の話です。昔、江戸では初対面の人に「年令」「職業」「地位」を聞いてはいけないことがマナーとされ、これを「三脱の教え」といいました。三脱とは三つのものにとらわれないという意味で、この三つの情報を知ることにより公平な目でみることができなくなることを戒めたのです。名刺の肩書きだけで人を判断したり、初対面でも平気で年収を聞く人も多い昨今、相手を思いやる心をもち色眼鏡で見ないように、先入観をもたずに人につきあうことが江戸人の粋だったので。私がロータリークラブに入会し、気楽に過ごせるのは、皆様が「年令」「職業」「地位」に関係なく接してくれているからなのかと思います。どんな身分の人であろうと失礼な物言いや差別をしない「三脱の教え」をこれからも残してゆきたいと思っています。

幹事報告

山本 進三 幹事



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、当クラブが第37回米山功労クラブとして感謝状をいただきました。下記のお知らせ・案内が来ましたので回覧します。

- こぼと学園より、こぼと学園だより5月号 No.438
- 和歌山青年僧の会、第22回文化講演会協賛のお礼状
- (株)連専より、華月殿の株主が沖グループに替わり、新体制になった旨の挨拶文

ご挨拶

株式会社 連専 萩 高明 社長

永年に亘り、当社の子会社として華月殿を運営してまいりましたが、このたび、諸般の事情により、華月殿は、連専の子会社から独立し、業務提携先の沖グループの代表者である山縣好希氏個人が経営することになりました。働いている社員スタッフは、全員がこれまでと同じポジションで、皆様に対しましては、いままで以上のおもてなしと料理サービスに努めてまいりますので、これからも末永くご愛顧いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

2013-14年度のための地区協議会

5月19日(日) スターゲイトホテル関西エアポートに於いて



参加者

- 村田会員、松田会員、島会員、笹島会員、山東会員、田原会員、角谷会員、吉田会員、上中会員、赤井会員

出席報告

会員数 43名(内出席規定適用免除会員16名) 乾 敦雄 S.A.A.

5月16日(本 日) 22名 68.8% 5月2日(メーキャップ後) 休 会

皆さん、出席してください。

卓話「話し方」----- アナウンサー 笠野 衣美さん



テレビ和歌山のアナウンサーを2年前退社し、フリーアナウンサーになりました、笠野衣美と申します。現在は和歌山放送のラジオ番組「グッデイ」や、テレビ和歌山制作、知事対談での司会、その他、レポート、各種イベント司会等をしております。

本日の卓話に寄せていただいたのは、偶然の出会いがきっかけでした。ついであって狐島のメッセで買い物をし、レジ袋に食材を詰め込んでいたときのこと。ふと目が合った素敵な紳士が、「テレビのアナウンサーだね」と声をかけてくださいました。「はいそうです」と二言三言ことばを交わしたあと、名刺をくださいました。笹島顧問でした。

それから数日後、笹島顧問がテレビ和歌山にわざわざ足を運んで会いに来てくださったのです。驚きましたが、不思議なご縁を感じ、お引き受けしました。しかしながら、拙い私のアナウンサー生活から、皆様にご紹介できることはそんなにございません。考えた末、言葉を使っただけの仕事から、「人に聞いてもらえる話」「人に話してもらえる聞き方」のコツを中心に、お話できればと思います。

私たちは、普段、自分が言葉に発したことは、当然相手に伝わっているはずだと思っています。しかし、実は相手がうわの空だったり、返事はいいのにちゃんと聴いていなかったりと、真意が伝わっていないばかりか、心の中では、「早く話終わって!」と祈られていることさえあります。一方ですんなり耳に入ってくる心地よい話を聞いた時は得をした気分になることがあります。

司会をしながら、様々なスピーチをお聞きしていますと、残念ながら「聞きたくない話」には共通点があります。それは「話者」が「聞き手」に何かしらストレスを与えてしまっているという事です。せつかくの知識や為になる話でも、ストレスを感じた途端、人は聞く気持ちが急激に失せてしまいます。

従って「聞いてもらう」ためには、「聞き手」にストレスをかけない話し方をしなければなりません。

どんなストレスがかかっているか、観察していますと、大きな要因は全ての「言葉」が届いていない事だと思えます。会場の隅々まで、言葉が届くことは基本のように思えます。しかし、実際は、マイクの使い方が間違っていたり、あるいは、言葉の初めだけが大きく、最後は小さく早口になってしまうなど、全ての言葉が聞き手に届いていないことが多いのです。こうなると、最初は聞こうとしている聴衆も、潮が引くように、興味が失せて行き、居眠りを始めてしまう人が続出します。また、専門用語の使い過ぎも聴衆を「置いてけぼり」にしてしまい、聞き手にストレスをかける要因になっています。

聞き手にストレスを感じさせないために。1つ目は、ゆっくり話すこと。2つ目は、適度な大きさの声で話すこと。そして、3つ目は一音一音はっきりと話すことです。

そんな簡単な事かというようで、やってみると、意外にできていない方が多いです。緊張すると、どんどん早口になるものです。声が届いているかどうか、話しながら会場を見渡して、最後部の方が頷いているのを確認してください。マイクを使う場合は、マイクと口元の距離、マイクの向きをしっかりとチェックしてからお使いください。

また、式典や祝賀会で依頼される来賓スピーチなどは、「時間を守ること」が重要なポイントです。挨拶を依頼されたら、主催者に持ち時間を確認し、それを超えないことが、何より感謝されるお祝いになります。1分スピーチの長さは字数にして280字~300字が目安です。滑舌の良いアナウンサーがニュースで読む早さはちなみに320~340字くらいでしょうか。

字数の参考までに声を出して次の文章を読んでみてください。「和歌山東ロータリークラブは明るくダンディなロータリアン!」この文字数は音の数が30字。1分で10回弱繰り返す速さが適度な速さということです。

一方「人に話してもらえる聞き方」ができると、人間関係が断然良くなります。大抵の方は自分の思いを受け止めてもらえると、とても嬉しくなるものです。人の話は「聞く」ではなく「聴く」を心がけることが大切。取材をする時、人に依頼する時、すべては「聴く」行為から始まると言っても過言ではありません。まずは人間関係を作ってから、ようやく本音を聞きだすことができるのです。ポイントは「相づち」。

「相づち」とは、相手の話調子を合わせてうなずいたり、ことばを挟んだりすること、辞書に書かれています。調子を外すと、話し手が「聞いてもらえていない」と察知し、話しても無駄だと諦めてしまうのです。

インタビューなどで相手の方が本音を話して下さるときは、この「相づち」が上手くできたときではないかと思っています。私が心がけていることは3つ。1つ目は目をみて微笑むこと。2つ目はうなずくこと。そして3つ目は褒めることです。目を見て微笑むのは、微笑もうとしてやっているわけではなく、目の奥にある心を見ようとする、自然に通じ合って、安心感から笑顔が出ます。笑顔にはミラー効果というものがある、伝染するのだそうです。また「うなずき」は相手に興味関心があるというサインです。「褒める」というのは「相手を認める」ことです。

よく上手に話すにはどうすればいいかと尋ねられるのですが、アナウンサーの仕事の9割は、実は「聴く」ことです。実際は、単に、目を見てよく話を聴いて、疑問点をもう一度尋ねているだけです。但し全身で相手に興味関心を持ち、面白がって聞いています。そうすることで、相手の方は、もっと教えてやりたいという親切な気持ちがふつふつと湧いてくるのでしょう。

アナウンサーをしていて、良かったと思うのは、色んな方とお会いし、その方の経験や知識を、出し惜しみすることなく、教えていただけることです。色んな方と話して感じるのは、元来人はみんな親切だということでしょうか。袖触れ合うチャンスを得たなら、なるべく多くの方から素敵な言葉をお聞きし、尊敬すべき方をどんどん増やしたいと思います。

本日の機会を得たこと、心から感謝申し上げます。これからも出会いを大切に、益々、精進いたします。ありがとうございました。

皆出席表彰

吉田 篤生さん 谷口 文利さん



おめでとうございます!

米山記念奨学会より表彰



米山功労クラブ表彰



第2回米山功労者 堀岡忠男さん

おめでとうございます!